【341】

氏　　名	今　井　鐳　藏（いま　い　らい　ぞう）
学位の種類	農　学　博　士
学位記番号	論　農　博　第　535　号
学位授与の日付	昭　和　49　年　9　月　24　日
学位授与の要件	学　位　規　則　第　5　条　第　2　項　該　当
学位論文題目	**農業経営の計画と管理に関する理論的研究**
論文調査委員	（主査）教　授　岸根卓郎　教　授　菊地泰次　教　授　上村恵一

論　文　内　容　の　要　旨

本研究は近代的農業経営の確立のための個別農業経営計画と地域農業計画の策定，ならびにそのようにして計画された農業経営の管理について，理論的，実証的に論じたもので，その内容は，システム理論の立場からは，大きく3つの部分に分けられる。すなわち，その1は農業経営のシステム分析であり，その2は農業経営のシステム設計であり，その3は農業経営システムの最適化である。

まず，農業経営のシステム分析に関しては，本研究では，自然的，社会的生産関係を中心に，種々な面から農業経営のシステムの分析が試みられている。すなわち，農業経営にとって基本的に重要な生産手段である農地の利用構造に関するシステム分析や個別農業経営相互の協業化に関するシステム分析などがそれである。

ついで，このようなシステム分析を基礎に，本研究では，近代的な農業経営を具現するために必要な地域農業計画ならびに個別農業経営計画に関するシステム設計の在り方が，生産手段の利用面に関して明らかにされている。すなわち，はじめに地域産業計画のサブ・システムとしての地域農業計画が，ついでそのサブ・システムとしての個別農業経営計画の在り方が，それぞれ生産手段の利用面に関して具体例をもって示されている。

最後に，以上のようにシステム設計された農業経営計画を実行に移したさいに，はたしてそれが予定どおり最適化の方向を指向しているか否かを検討する必要がある。この点に関しても，本研究では，それを経営管理の面に限ってとらえ，そのために必要な経営管理技術ならびに経営管理指標について種々論及している。

論文審査の結果の要旨

農業経営の近代化のためには，従来とられてきた生産手段の高度化政策，いわゆる土地基盤整備や共同施設の整備，機械の導入などのほかに，その高度化された生産手段の利用構造を合理化し，生産性をより

向上させるための経営のシステム化が重要である。本研究は，このような問題にシステム理論の立場から取り組んだものである。

すなわち，システム理論の見地からは，農業の生産手段の利用の合理化，なかんずく農業にとって基本的に重要な生産要素としての農地利用の合理化には，大きく分けて2つの方向がある。第1は農地の利用区分を適正化するためのシステム化の方向であり，第2は農地の経営規模を拡大するためのシステム化の方向である。前者に関して，本研究は，土地の生産機能と作物との関係をシステム化するとの見地から，いわゆる適地適作の理論を展開し，農地の適正利用区分の在り方を明らかにした。また，後者に関しても，本研究は，家族的農業経営のもつ生業性と複合性の特質を解明し，それに基づいて，個別農業経営相互間の近代的な土地結合関係をシステム化するとの見地から，いわゆる協業化による農地経営規模拡大の在り方を明らかにした。

しかし，このようにして農地の合理的利用の在り方が解明されたとしても，農地のほかに労働，資本をも含む農業の生産手段の量は限られたものであるから，そこに生産手段の利用をめぐって個別農業経営相互間に相克乖離が生ずることになる。ここに，それを地域農業全体の立場から調整するための地域農業システムの設計，いわゆる地域農業計画が必要となってくる。本研究は，この問題に関しても，地域農業と個別農業経営との関係を明らかにしたうえ，サブ・システムとしての個別農業経営が，自己の経済性を追求しつつ，トータル・システムとしての地域農業全体の発展にいかに貢献すべきかという，地域農業計画における個別農業経営計画の在り方を，生産手段の利用面に限って明らかにした。

以上の過程を経て地域農業計画と個別農業経営計画とが策定されたとして，つぎにその計画が予定通り最適化の方向を指向しているか否かの検討が必要となってくる。この点に関しても，本研究はそれを経営管理の面に限ってとらえ，それに必要な経営管理技術ならびに経営管理指標に関する独自の見解を明らかにした。

上記のように，本研究は，限られた範囲ではあるが，システム理論の立場から，新しい農業経営の計画と管理の在り方を明らかにしたもので，農業経済学および農業経営学に寄与するところが大きい。

よって，本論文は農学博士の学位論文として価値あるものと認める。